

## 第1回 厚木愛甲環境施設組合事業報告会 概要

名 称 厚木愛甲環境施設組合事業報告会  
日 時 平成29年6月25日（日）午後2時から午後3時50分  
場 所 厚木市環境センター 2階会議室  
出席者 22人  
組合9人、委託先コンサルタント7人

### 【会議概要】

#### 1 開 会

#### 2 挨拶

**霜島副管理者）** 日ごろ、当組合事業に対し格別なる御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本日は、組合構成市町村の厚木市、愛川町、清川村のほか、海老名市、座間市、綾瀬市の皆様にも事業について御理解をいただきたく説明会を行うことといたしました。当組合は平成16年4月に設置された一部事務組合であり、ごみ中間処理施設整備事業を進めておりますが、これは金田地区にお住まいの皆様の非常に深い御理解をいただいた中で今日まで進めることができているものでありまして、地域の皆様に深く感謝申し上げます。現在、平成37年度の稼働を目指して事業を進めておりますが、事業区域の周辺を対象とした環境アセスメントにつきましては、既に調査に入っており、この手続を進めながら同時に都市計画決定の事務を進めているところです。この後、事務局から事業の概要などについて御説明し、皆様から御質問をいただくなどして、より良い事業としていきたいと存じます。日曜日の貴重な時間を割いて御出席いただき誠にありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

#### 3 報告内容

- (1) ごみ中間処理施設整備事業の概要について（資料参照）
- (2) 事業区域の嵩上げについて（資料参照）
- (3) 環境アセスメントの調査状況について（資料参照）

#### ～質疑応答

**参加者）** 資料2ページの廃棄物処理施設整備の方針には、安定した電力や熱の供給の役割も期待できるとの記載があります。私ども金田地区の住民は、施設完成後には電力供給をしてもらいたいと要望してきましたが、計画では海老名市のららぽーとの方から接続する予定と聞いています。これはある意味やむを得ないことと思いますが、金田の一時避難

所である依知南小学校は遠いため、近くのふれあいプラザに電力供給することによってより良い環境の避難場所にできると思います。これが実現されるようお願いいたします。

**回 答)** 現在、ふれあいプラザへの熱供給は厚木市環境センターから行っていますが、新施設完成の際にも同程度の熱量を供給する計画です。また、電気については電気事業法の規制があつて発電電力を他の施設に供給することは難しい面もありますが、何らかの方法で供給するよう検討を進めているところです。

**参加者)** 5ページの環境大気の二酸化窒素を示すグラフは環境基準値が0.04から0.06ppm以下と記載されていて環境基準値を示す赤線は0.06ppmを示しています。また、6ページの沿道大気の二酸化窒素を示すグラフには環境基準0.06ppm以下と記載されています。この違いは何でしょうか。

**回 答)** 二酸化窒素の環境基準については、0.04から0.06ppmまでのゾーン内、またはそれ以下とされていますので、そのように資料を訂正させていただきます。

**参加者)** 大気質調査は小中学校など5箇所で測定しています。その中で風向は南風が多いとの説明がありましたが、測定地点は風下がないのでこの場所で測定する意味がないと思います。また、測定値は期間中の平均値で表していますが、平均値ではなくピーク値を出すべきではないかと思います。

**回 答)** 調査地点の風向については、冬は北風が多くなりますが、調査時期では概ね南風が多いという結果です。このため、南北方向の風下方向にあたる小中学校を調査地点として選定しました。また、最大値を示すべきとの御意見ですが、例えば二酸化窒素については7日間測定した日平均値の最大値を示しています。また、一時間値を示すデータについては、7日間測定した一時間値の最大値を示しています。今後、夏、秋及び冬の測定結果を基にして全体評価を行っていきたいと考えております。

**参加者)** ダイオキシンだけが平均値になっているのはなぜですか。

**回 答)** ダイオキシンについては7日間連続して採取し、この採取したサンプルを1検体として分析するので測定期間の平均値として表しています。

**参加者)** 報告会の参加者が少ないので、開催について周知徹底を図るよう要望します。また、資料の3ページを見ると施設完成後の浸水域は完成前の想定よりも小さくなっています。私は浸水域が大きくなると考えていますので、この点の説明をお願いします。

**回 答)** 本日の報告会開催につきましては、関係市町村の広報紙や組合だより、かねだ新聞などにより周知できていると考えていますが、今後も検討していきます。

後段の御質問については、嵩上げ前と嵩上げ後では破堤箇所数が異なります。このため、嵩上げ後の方が浸水域が狭くなっています。これは、嵩上げ後は実施区域の真横のe点が破堤を予想する場所ではなくなるため、各破堤場所からの浸水域を重ね合わせた結果、浸水域が狭くかつ浅くなったということです。嵩上げ前は実施区域横の破堤によ

る影響が最も大きかったということであり、嵩上げ後はこの場所が破堤しなくなるため結果として浸水区域が狭くなったということです。

**参加者)** 嵩上げの結果、水を溜める体積が減り、そこに入るはずだった水が他に行くことはないのでですか。

**回 答)** 嵩上げにより水を溜めることができる体積が減ることも考慮し想定していますが、破堤する箇所数が減るため、入ってくる水が減り浸水域が狭くなったということです。

**参加者)** 下依知付近で破堤した場合、入ってくる水を溜める体積が、嵩上げの結果減るので浸水域が広がると考えているのですが。

**回 答)** 氾濫のイメージ図は、堤防を越えてくるというものでなく、堤防を壊してその結果、水が入ってくることを示しています。また、150年に1度の大雨でも堤防を越えるということにはなっておらず、氾濫する前提を作るために堤防を山線まで取ってしまった場合、水はどこに行くかを示しているものです。

**参加者)** 国道246号より上流で堤防決壊が発生した場合にどのようなになるか聞きたいのです。

**回 答)** 県では国道246号より上流の堤防が破堤した際の氾濫シミュレーションも行っていますが、上流から金田地区には水が流れて来ない結果となっています。国道246号が盛土の役割を果たし、国道246号沿いに白い色で示されている浸水しない部分がありますので、水はこれより下流にはほとんど行かないということです。これが神奈川県で作成した浸水想定図が意味するところですよ。

**参加者)** 予測評価書案を作成する前には煙突の高さを決定し、予測評価書案に反映していくと受け取ってよろしいですか。また、地下水位の説明がありましたが、これに関する参考比較雨量はどのデータを使っていますか。

**回 答)** 地下水水位は海老名市の気象観測所のデータを使っています。

**参加者)** 煙突の高さを決定し、予測評価書案に反映していくと受け取ってよろしいですね。

**回 答)** はい。

#### 4 厚木市環境センター焼却処理施設の見学

《第1回 厚木愛甲環境施設組合事業報告会の様子》



会議



施設見学